

リンパ浮腫サポートチーム「ぽによの会」活動報告

The activity report of Lymphatic oedema Support team “Ponyo no kai”

東4階 瀬戸恵美、丸山英子、篠原千寿

東8階 内藤綾子、玉井琴江

緩和医療部 越由香里

リハビリテーション部 PT 三澤加代子

元外来 神田史歩

【要旨】

リンパ浮腫とはリンパ管の働きが何らかの原因で障害され、皮膚組織に体液が貯留して生じる局所性のむくみのこと言う。リンパ浮腫の患者は全国で1万人から1万3000人と言われ、年々増加している。続発性と原発性に分類され、続発性の主な元疾患はリンパ節郭清を伴う婦人科がん、乳がん、頭頸部がん、前立腺がんなどであり、手術や放射線療法が誘因で発症する。主に一側だけがむくむが命に関わることはない。しかし、放置することで症状は進行し、日常生活もかなり妨げられる。私たちは2008年11月からリンパ浮腫サポートチームとして活動している。私たちがリンパ浮腫診療の窓口を開設するまでにどのような活動をしてきたかを報告する。

Key word: リンパ浮腫、サポート、外来

【はじめに】

近年、適切な管理を継続的に行うことで症状の出現、進行を抑制することが可能であると知られてきた。2008年4月の診療報酬改定で弾性着衣の保険適用やリンパ浮腫指導管理料導入により、リンパ浮腫という言葉がかなり周知され、以前に比べれば療養環境も整ってきた。ところが、現状は弾性着衣以外の治療に対する保険適用はなく、適応も術後に限定されていること、リンパ浮腫の治療を行う資格も教育システムも確立していないことなど、まだ患者にとっても、それに関わる医療従事者にとっても環境が整っているとはいえない。県内ではリンパ浮腫の治療やケアを専門的に実施している施設は長野市民病院、諏訪赤十字病院の2施設しかなく、当院の重症リンパ浮腫患者も県内、県外の他院に紹介されたり、患者自身が受診先を探していた。患者の負担を軽減するために何か行動を起こす必要があった。写真は、乳がん術後の左上肢リンパ浮腫、子宮がん術後の左下肢リ

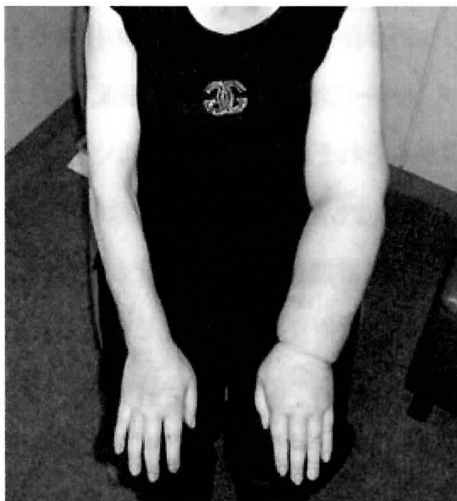
リンパ浮腫の患者である。このような患者を自分達の病院で援助したいと思った有志が集まり、サポート活動が始まった。

【目的】

チームの活動目的は主に①リンパ浮腫患者の支援、②リンパ浮腫にかかわる看護師の教育、③リンパ浮腫の啓蒙活動である。

ぽよの会創設時のメンバーは、乳腺領域の看護師3名、婦人科領域の看護師3名、緩和ケアチーム看護師1名、理学療法士1名だった。メンバーの参加動機はそれぞれ、浮腫のある患者が気になっていた、リンパ浮腫に興味があった、患者が少しでも楽になってほしいと思った、病棟でマニュアルの作成、勉強会をやりたい、院内公開講座を開きたい、患者をリハビリに紹介していたので、自分たちでケアができたらいと思っていた、リンパ浮腫外来を作っていきたい、院内で統一したケアやサポートができるといいと思った、などである。一生疾患をコントロールしながら日常生活を送る患者が前向きになれるように、明るく親しみやすいイメージからグループの名称を「ぽよの会」とした。

写真 リンパ浮腫（左：乳がん術後 右：子宮がん術後）



【内容】

①リンパ浮腫患者の支援 メンバーそれぞれが所属部署で乳がん、子宮がん、卵巣がんの患者に生活指導、リンパマッサージ、弾性着衣の紹介を行っている。今まで術直後のリンパ浮腫の患者はリハビリテーション部に紹介され理学療法士に介入してもらうか、メンバーが直接主治医から依頼を

受けて対応していたが、2010年1月から、その中で民間のリンパ浮腫セラピストの資格を取得したメンバー2名（2011年2月現在1名）が中心になり、産婦人科、乳腺内分泌外来受診時に依頼のあった患者のサポートを開始した。その後、患者の増加もありリンパ浮腫外来開設に至った。

②リンパ浮腫に関わる医療従事者の教育 メンバーの所属部署での活動がメインであるが、リンパ浮腫ケアで困っている多くの医療従事者の支援、指導ができるように、月1回程度のミーティングで実技演習や研修報告会を行っている。今はメンバー各自所属部署での活動中心だが、他病棟、他部署でもリンパ浮腫で困っている患者のケアができるようにしたいと思っている。そのために対象患者のいる病棟をラウンドし、スタッフのサポートができるように準備している。

③リンパ浮腫の啓蒙活動 リンパ浮腫について患者、医療従事者に広く知ってもらいたいと思い、リンパ浮腫パンフレットを作成し、関係者に配布した。パンフレットに沿って患者指導を行えば、必要な指導は行えるようになっている。これによりリンパ浮腫指導管理料の算定も可能となった。

【外来について】

外来で紹介された患者について、当初は各診療科単位で受診のついでにケアしていたが、患者数が増加してきたため、独立した外来として運営できるように調整することになった。ここでは看護部、外来、医事課など、各方面の調整を必要としたため、当初予定していた開設時期から、かなり遅れてスタートすることになった。各関係部門の協力を得てリンパ浮腫外来開設に向けての検討会を開始したのが2010年5月からだった。検討会はぽよの会メンバーに加え、乳腺外来医師、産婦人科外来医師、外来師長、病棟師長、看護部管理部門、医事課からそれぞれ出席してもらい、開設までに計5回を実施した。途中、乳腺担当者の退職で開設見送りの危機もあったが、7月には統括医長会、外来診療連絡会議で承認され、10月からリンパ浮腫外来として診療を開始することができた。現在のリンパ浮腫外来の診療体制は、人材不足のため患者を産婦人科術後患者に限定しており、主な実施場所は産婦人科外来である。診察室は泌尿器科を使用させてもらっているが、患者の事情に合わせ通院治療室に出向くこともある。診療時間帯は毎週金曜日 14:30~15:30、1日1~2名の完全予約制である。業務内容は問診、触診、計測などの診察、スキンケア、マッサージなどの治療、処置、弾性着衣の紹介、生活指導などの管理である。初診時は1人の診察に時間がかかるため時間を延長することも多い。また、最近は患者数が多いため、再診の場合は最大1日4人診察することもある。診療報酬はいまのところ再診料のみだが、術後、受診のタイミングがよければリンパ浮腫指導管理料の対象になる。現時点では産婦人科外来も混み合っているため、術後1ヶ月以内の受診は難しく、管理量算定はされていない。

2010 年 10 月から 2011 年 2 月までの患者数は述べ 27 名、すべて産婦人科でリンパ節郭清術を受けていた。ケア内容は問診、計測、マッサージ、生活指導、弾性ストッキングや包帯、マッサージのセルフケア指導である。27 名中 3 名が改善（表）してコントロール良好につき 3 ヶ月から半年の定期フォローのみ、21 名が難治性のため継続

診療中、その他は初診患者やもともとリンパ浮腫の発症はなく、指導のみの患者である。

改善症例ではすべてにスキンケア、マッサージ後弾性ストッキングを着用し、運動するように指導しました。これらの、「複合的理学療法医療リンパドレナージ」により、1 週間～1 ヶ月で改善がみられた。

表 改善された患者の計測値

計測値（大腿） cm（下腿）	施術前	施術後	差
A	68.0	61.0	－7.0
	48.5	43.5	－5.0
B	55.5	51.0	－ 4.5
	38.0	36.0	－ 2.0
C	58.0	55.0	－ 3.0
	42.3	38.5	－ 3.8

【まとめ】

患者救済のため、多くのスタッフの協力を得てリンパ浮腫外来を開設することができた。これにより現在、産婦人科に関しては、当院発症のリンパ浮腫患者が当院でケアを受けられるようになっている。リンパ浮腫外来ができたことで患者の負担を軽減し、継続診療によるリンパ浮腫の発症抑制、悪化防止につながっていると思われる。

医療技術の向上、手術の複雑化により、リンパ浮腫を発症し受診を希望している患者は増加傾向にある。現在も乳腺や泌尿器の術後患者から受診希望があるが、マンパワーの問題で対象となっているのは産婦人科の術後患者のみとなっている。今後、増加するであろう患者のニーズに応えるため、リンパ浮腫のケアを担える人材を育成することは、チームとしての責務である。患者の声、現場の声を世間に広く発信し、療養環境の改善に努め、いずれはすべてのリンパ浮腫の患者が診療科、部署、入院、外来に関わらず統一したケアを受けられるように環境を整えていきたい。

【結語】

私たちの活動は、リンパ浮腫患者が統一したケアを受けられ、リンパ浮腫と気付いていない潜在患者の掘り起こしに繋がり、がん拠点病院の質の向上に貢献するものである。